

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
I-2- (1)-② 大学な どの教 育研究 機能の 充実	1	④ ⑨	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	企画 課	公立大学法人の設 置者として、地方独 立行政法人法第42条 に基づき、業務運営 に必要な経費を交付 し、法人の業務運営 の健全性を確保す る。	公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る各事業年度に 係る業務に対す る評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年 度)	2,464,100	2,638,691	2,319,452	13,200	順調	令和2年度に係る公立大 学法人北九州市立大学評価 委員会の評価結果は、「A (計画どおり)」との評価 を得ており、令和2年度の 目標を達成したため、「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立 大学の評価について、計画 どおりとの評価を得ている ため、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、大学の取組を 注視していくとともに、効 果的な研究活動の支援のた め、大学のニーズに応じた 支援に努めていく必要があ る。	引き続き、公立大学法人 北九州市立大学の健全な業 務運営と教育研究の高度 化、地域への貢献などを支 援する。
							実績	A (計画どおり)	A (計画どおり)										
							達成率	—	—										
						目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	A (R4年 度)										
実績	—	—																	
達成率	—	—																	

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題		
I-2- (1)-④ シンク タンク を活用 した調 査・研 究機能 の強化	2	④ ⑨	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	企画課	北九州市立大学地 域戦略研究所での地 域研究プロジェクト、受託調査を通じ て、地域研究の高度 化を推進する。	公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る各事業年度に 係る業務に対す る評価	A (R1年 度)	目標 A (計画ど おり)	実績 A (計画ど おり)	達成率 —	—	中期 目標 A (毎年 度)	2,464,100	2,638,691	2,319,452	13,200	順調	令和2年度に係る公立大 学法人北九州市立大学評 価委員会の評価結果は、「A (計画どおり)」との評価 を得ており、令和2年度の 目標を達成したため、「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立 大学の評価について、計画 どおりとの評価を得てい る。 アジア成長研究所におい ては、コロナ禍にありなが らオンラインによるセミ ナー、フォーラム開催・配 信や学会活動等の地域貢 献・学術研究活動を推進し ており、また、研究結果が 著名な雑誌に掲載されるな ど国内外での評価を受けて いることから「順調」と判 断。	引き続き、公立大学法人 北九州市立大学の健全な業 務運営と教育研究の高度 化、地域への貢献などを支 援する。 アジア成長研究所におい ては新たな中期計画に基づ き、北九州を中心とする地 域社会の政策立案への貢献 や教育・研究機関及び民間 企業との連携強化など、地 元貢献を重視した日本を代 表するアジア研究機関を実 現するため、地域への知的 貢献と国際水準の知的基盤 の強化を目的とした活動を 行う。
						公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る中期目標期間 に係る業務に対 する評価	A (H28年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	—	—	中期 目標 A (R4年 度)					順調			
	3	④ ⑨ ⑰	(公財) アジ ア成長研究所 補助金	国際課	本市がアジアの中 核的な産業都市とし て持続的な成長を実 現するため、国際水 準の知的基盤の強化 と地域への知的貢献 を目的とする活動 を行う(公財)アジア 成長研究所に補助金 を交付する。	著名な学術雑誌 への論文掲載数	—	目標 5 本	実績 4 本	達成率 80.0 %	5 本	5 本	5本 (毎年 度)	140,000	121,150	140,000	4,650	順調	国際水準の研究活動と地 域をテーマとした研究活 動を両立し、著名な学術 雑誌への論文掲載数は目 標を達成した。 また、外部資金獲得数に ついて、目標には届かな かったが、目標に近い件 数を達成したため、「順 調」と判断。		
					科学研究費を含 む外部資金獲得 数	—	目標 6 件	実績 7 件	達成率 116.7 %	6 件	5 件	6件 (毎年 度)									

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題			
I-2- (2)-③ アジア との架 け橋と なる人 材の育 成	4	④ ⑨	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	企画課	公立大学法人の設 置者として、地方独 立行政法人法第42条 に基づき、業務運営 に必要な経費を交付し、法人の業務運営 の健全性を確保す る。	公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る各事業年度に 係る業務に対す る評価	A (R1年 度)	目標 A (計画どおり)	実績 A (計画どおり)	達成率 —	A (毎年 度)	2,464,100	2,638,691	2,319,452	13,200	順調	令和2年度に係る公立大 学法人北九州市立大学評価 委員会の評価結果は、「A (計画どおり)」との評価 を得ており、令和2年度の 目標を達成したため、「順 調」と判断。				
						公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る中期目標期間 に係る業務に対 する評価	A (H28年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	A (R4年 度)							【評価理由】 公立大学法人北九州市立 大学の評価について、計画 どおりとの評価を得てい る。 留学生と地元企業の相互 理解度や留学生の市内企業 への就職者数の達成率か ら、「順調」と判断。			
	5	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向 けた留学生等 受入定着促進 事業	国際策 課	留学生等を地域で 支える体制を構築 し、留学誘致、生活 支援、就職支援の各 施策を一体的に実施 し、定着促進を図 る。	外国人人口の社 会動態増加数 (H28年増加数 比)	外国人 社会動 態増加 数+ 1,010人	目標 +1,600 人	実績 +1,452 人	達成率 90.8 %	+1,600 人 (R1年 度)						【課題】 引き続き、大学の取組を 注視していくとともに、効 果的な研究活動の支援のた め、大学のニーズに応じた 支援に努めていく必要があ る。 留学生と地元企業の相互 理解については、関係機関 と連携しながら、情報共有 等行っていく。				引き続き、公立大学法人 北九州市立大学の健全な業 務運営と教育研究の高度 化、地域への貢献などを支 援する。
					留学生と地元企 業の相互理解度 留学生等高度人 材活用の向上 (企業との相互 理解が進んだ状 態＝留学生が市 内企業の情報を 4社以上知って いる)	20.9% (H29年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	35.0 % (R2年 度)	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	留学生誘致PRツール更新 や留学生支援ネットワー クによる情報提供を随時行 った。 また、留学生と地元企業 の相互理解度や留学生の市 内企業への就職者数の達成 率から、「順調」と判断。					
					市内の大学や専 門学校を卒業し た留学生の市内 企業への就職者 数	43人 (H30年 度)	目標 50人以上	実績 80 人	達成率 160.0 %	50人 以上 (R2年 度)											

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
II-3-(3)-① 多文化共生社会の実現に向けた体制の構築	6	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	外国人市民が安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりを推進するため、外国人市民が抱える生活上の諸問題や支援に対するニーズの把握を行う。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度	51.8% (H29年度)	目標 53.0 % 実績 58.1 % 達成率 109.6 %	R1年度 53.0 % R2年度 60.6 % 114.3 %	60% (R6年度)	43,565	42,241	56,272	3,075	順調	多文化共生ディスカッションで意見交換会を行い、新たな課題を見つけることができた。 また、「多文化共生」という言葉の認知度について昨年度より上回ったため、「順調」と判断。		
	7	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた留学生等受入定着促進事業	国際政策課	留学生等を地域で支える体制を構築し、留学誘致、生活支援、就職支援の各施策を一体的に実施し、定着促進を図る。	外国人人口の社会動態増加数 (H28年増加数比)	外国人社会動態増加数+1,010人	目標 +1,600 人 実績 +1,452 人 達成率 90.8 %	単年度目標 設定なし — —	35.0 % 26.8 % 76.6 %	+1,600 人 (R1年度)	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	留学生誘致PRツール更新や留学生支援ネットワークによる情報提供を随時行った。 また、留学生と地元企業の相互理解度や留学生の市内企業への就職者数の達成率から、「順調」と判断。	外国人市民が安心して住み続けられるように、外国人市民の視点で感じる現状や課題を把握し、改善に向けて効果的な事業を実施する。 また、外国人市民への働きかけだけでなく、日本人側の受入体制の強化も促進する。
						留学生と地元企業の相互理解度 留学生等高度人材活用の向上 (企業との相互理解が進んだ状態＝留学生が市内企業の情報を4社以上知っている)	20.9% (H29年度)	目標 — —	35.0 % — —	35.0% (R2年度)								
	8	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター関連事業	国際政策課	外国人市民が安心して生活できるための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」の運営を行う。	外国人市民の生活環境の向上 (多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答)	79.7% (H26年度)	目標 80.0 % 実績 85.0 % 達成率 106.3 %	単年度目標 設定なし — —	80%以上 (R6年度)	24,715	24,715	24,615	2,325	順調	令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、電話・メール・FAXでの対応を行い、外国人市民への相談体制の充実を図ったことで、相談件数の目標を達成することができた (目標：900件→実績：1,201件)ため、「順調」と判断。		

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性							
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題						
II-3-(3)-② 外国人 市民の 生活環 境の充 実	9	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本語の不得手な 外国人市民へのサ ポートとして、行政 機関や医療機関（健 康診査）に通訳ボラ ンティアを派遣する とともに、災害時通 訳も含めた通訳ス タッフのスキル向上 を図る。 また、多言語等で わかりやすい生活情 報の提供をすること により、外国人市民 の安全・安心な生活 環境の整備を推進す る。	外国人市民の生 活環境の向上 （多文化共生の 現状調査で暮ら しやすいと回 答）	79.7% （H26年 度）	目標 80.0 %	単年度目標 設定なし	80%以上 （R6年 度）	43,565	42,241	56,272	3,075	順調	行政や医療の場におい て、日本語でのコミュニ ケーションが困難な外国人 のために、コロナ禍でも、 可能な限り遠隔通訳での対 応を行ったことで目標を達 成できた（目標：130件→ 実績：148件）ため、「順 調」と判断。									
	10	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向 けた留学生等 受入定着促進 事業	国際 政策 課	留学生等を地域で 支える体制を構築 し、留学誘致、生活 支援、就職支援の各 施策を一体的に実施 し、定着促進を図 る。	外国人人口の社 会動態増加数 （H28年増加数 比）	外国人 社会動 態増加 数+ 1,010人	目標 +1,600 人	実績 +1,452 人	達成率 90.8 %	+1,600 人 （R1年 度）	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	【評価理由】 外国人市民の悩みに対応 するため、行政・医療につ いての通訳支援や、専門的 な知識を持つ多文化ソー シャルワーカーを中心に、 相談者の支援・解決を行っ たため、「順調」と判断。	【課題】 外国人市民支援事業や多 文化共生の意識啓発を引き 続き実施しながら、外国人 市民が地域を支える担い手 となるように、地域社会へ の参加を促進するよう努め る。	今後も（公財）北九州国 際交流協会と密に連携し、 外国人市民をとりまく環境 を幅広くとらえ、安心して 住み続けられるよう効果的 な支援を行っていく。						
					留学生と地元企 業の相互理解度 留学生等高度人 材活用の向上 （企業との相互 理解が進んだ状 態＝留学生が市 内企業の情報を 4社以上知って いる）	20.9% （H29年 度）	目標 単年度目標 設定なし	35.0 %	実績 —	26.8 %	35.0% （R2年 度）														
					市内の大学や専 門学校を卒業し た留学生の市内 企業への就職者 数	43人 （H30年 度）	目標 —	50人以上	実績 80 人	160.0 %	50人 以上 （R2年 度）														
	11	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター関連事業	国際 政策 課	外国人市民が安心 して生活できるた めの情報提供や相談 に多言語で一元的 に対応する「北九 州市多文化共生ワ ンストップイン フォメーション センター」を設 置し運営を行う。	外国人市民の生 活環境の向上 （多文化共生の 現状調査で暮ら しやすいと回 答）	79.7% （H26年 度）	目標 80.0 %	単年度目標設 定なし	80%以上 （R6年 度）	24,715	24,715	24,615	2,325	順調	令和2年度は新型コロナ ウイルス感染症対策のた め、電話・メール・FAX での対応を行い、外国人市民 への相談体制の充実を図 ったことで、相談件数の目 標を達成することができ た（目標：900件→実績： 1,201件）ため、「順調」 と判断。									

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
II-3- (3)-③ 市民の 国際理 解の推 進	12	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本人市民に対し て、多文化共生に関 する意識啓発や国際 交流の機会や場の提 供を行うことで、外 国人を受け入れる地 域づくりを目指す とともに、すべての 市民が安心して暮ら し、自己の能力を発 揮できる「多文化共 生先進都市」として のまちづくりを推進 する。	市民の「多文化 共生」という言 葉の認知度	51.8% (H29年 度)	目標 53.0 % 実績 58.1 % 達成率 109.6 %	R1年度 53.0 % R2年度 60.6 % 114.3 %	60% (R6年 度)	43,565	42,241	56,272	3,075	順調	外国人市民を対象とした 事業の後援をはじめ、学生 への講義、多文化共生意識 醸成番組の放送を実施する など、外国人市民と日本人 市民の相互理解の促進に努 めたため、「順調」と判 断。		
	13	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向 けた留学生等 受入定着促進 事業	国際 政策 課	留学生等を地域で 支える体制を構築 し、留学誘致、生活 支援、就職支援の各 施策を一体的に実施 し、定着促進を図 る。	外国人人口の社 会動態増加数 (H28年増加数 比)	外国人 社会動 態増加 数+ 1,010人	目標 +1,600 人 実績 +1,452 人 達成率 90.8 %	単年度目標 設定なし — —	+1,600 人 (R1年 度) 35.0 % 26.8 % 76.6 %	35.0% (R2年 度)	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	留学生誘致PRツール更新 や留学生支援ネットワー クによる情報提供を随時行 った。 また、留学生と地元企業 の相互理解度や留学生の市 内企業への就職者数の達成 率から、「順調」と判断。	引き続き、(公財)北九 州国際交流協会や国際交流 団体と連携しながら多文化 共生を推進する。

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度		R2年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価
Ⅲ-1- (1)-② 定住促進や地域活性化のための環境づくり	14	③ ⑧ ⑩ ⑪	定住・移住促進事業	地方創生推進室	北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略に人口減少対策の重要な柱の1つとして位置づける「定住・移住の促進」を図るため、首都圏におけるPRや「北九州市版生涯活躍のまち」の推進等に向けて取り組むもの。	北九州市への50歳以上の転入者の増加数	0人 (H27年度)	目標 100人	実績 206人	448人 (H28~ R2年度)	50,590	49,503	47,347	28,450	遅れ	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的に人流が抑制されており、本市の50歳以上の転入者数も減少し、目標に達しなかったため、「遅れ」と判断。 その一方で、転出者数も減っており、転出入の差である社会動態は平成27年度に比べ大きく改善している。 ※50歳以上の社会動態数 H27年度：△406人 →R2年度：△70人 なお、移住検討者の会員制度「すまいるクラブ」会員数や定住移住ポータルサイト「北九州ライフ」の閲覧者数は順調に推移している。	順調	【評価理由】 「北九州すまいるクラブ」会員数や「北九州ライフ」の閲覧数等、順調に増加している。 また、新型コロナウイルス感染症の影響等により、50歳以上の転入者数は目標に達しなかったものの、基準年(H27)に比べ、社会動態数は大幅に改善しているため「順調」と判断。 【課題】 アフターコロナに向けて、情報発信や移住支援体制を拡充させるなど、着実に準備を進める必要がある。	本市の定住・移住促進に向けて、本市の住みやすさや魅力などの情報発信に取り組むとともに、移住支援体制をさらに充実させていく。	
Ⅲ-2- (1)-① 近代化遺産などの文化財の保存・継承	15	⑩	世界遺産維持活用保全事業	世界遺産課	国や関係自治体、所有者等との連携のもと、遺産価値の保全につとめる。	登録資産の保全	現状把握のための調査継続	目標 保全計画策定	実績 保全計画の策定	ユネスコへの報告書作成	26,000	25,601	22,822	5,800	順調	世界遺産登録資産について、予定通り報告書を作成した。 また、イオンモールにブースを出展するなど、理解増進に努めたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためバスツアーの実施はできず、参加者の目標値を達成できなかったが、資産保全に向けた報告書の作成や、旧本務所内部の紹介動画の作成など、理解増進・集客増に向けたシビックプライドの醸成への取組を進めることができたため、「順調」と判断。 【課題】 現在の社会情勢に応じたバスツアーの実施方法や、更なる魅力発信、眺望スペースの幅広い活用などを検討していく必要がある。	世界遺産登録された構成資産の保全を行っていくと共に、関係機関と連携してインタープリテーション（理解増進・情報発信）の取組を推進し、観光資源としての魅力向上を図っていく。	
					まつり起業祭等、地元祭りに出展	2件 (R1年度)	目標 2件	実績 2件	2件 (毎年度)											

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
16	①		世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	旧本事務所眺望スペースの来場者数	目標	5万 人		20万人 (H28～ R1年度)	3,800	2,382	5,453	5,800	順調	新型コロナウイルス感染症により、来場者数の減少など影響を受けている。一方で、眺望スペースにガイドを配置し、来訪者へのインタビュー（理解増進・情報発信）を推進し、高い満足度を得たため「順調」と判断。		
							実績	1万3千 人										
							達成率	26.0 %										
						眺望スペース来場者の満足度	目標		50 %	60% (R4年度)								
							実績	37% (H29年度)	80 %									
							達成率		160.0 %									
						北九州都市圏域内への観光客数	目標	3,658 万人	3,665 万人	3,673万人 (R2年)								
							実績	3,640万人 (H27年)	集計中									
							達成率	92.4 %	—									
						北九州都市圏域内の宿泊者数	目標	178.6 万人	179.0 万人	179.4万人 (R2年)								
							実績	177.4万人 (H27年)	集計中									
							達成率	129.8 %	—									
バスツアーの参加者数	目標		180 人	180人 (R4年度)	10,000	8,569	—	5,800	遅れ	理解増進に向けた取組のうち、旧本事務所内部の紹介動画作成等を実施したが、バスツアーは新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったため、「遅れ」と判断。								
	実績	64人	0 人															
	達成率		0.0 %															

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性												
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題											
IV-3-(1)-② 地域企業 のニーズ に沿った人材 育成・確保の 促進	18	④ ⑩ ⑪	地方創生に向けた留学生等 受入定着促進 事業	国際 政策 課	留学生等を地域で 支える体制を構築 し、留学誘致、生活 支援、就職支援の各 施策を一体的に実施 し、定着促進を図 る。	外国人人口の社会 動態増加数 (H28年増加数 比)	外国人社会動態 増加数+ 1,010人	目標	+1,600 人	+1,600 人 (R1年 度)	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	留学生誘致PRツール更新 や留学生支援ネットワー クによる情報提供を随時行っ た。 また、留学生と地元企業 の相互理解度や留学生の市 内企業への就職者数の達成 率から、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市内大学生の地元企業へ の就職者数について、目標 を達成した。 また、留学生と地元企業 の相互理解度や留学生の市 内企業への就職者数の達成 率から、「順調」と判断。 【課題】 留学生と地元企業の相互 理解については、関係機関 と連携しながら、情報共有 等行っていく。	引き続き、市内大学等と 連携を進め、市内大学生等 の地元企業への就職を促進 していく。											
							実績	+1,452 人																						
							達成率	90.8 %																						
						留学生と地元企業 の相互理解度 留学生等高度人 材活用の向上 (企業との相互 理解が進んだ状 態＝留学生が市 内企業の情報を 4社以上知っている)	20.9% (H29年 度)	目標	単年度目標 設定なし	35.0 %	35.0% (R2年 度)																			
							実績	—	26.8 %																					
							達成率	—	76.6 %																					
						市内の大学や専 門学校を卒業し た留学生の市内 企業への就職者 数	43人 (H30年 度)	目標	50人以上	50人以上 (R2年 度)																				
							実績	80 人																						
							達成率	160.0 %																						
						IV-3-(2)-① 若年者の就業 意識の啓発や 能力開発・就 職活動への支 援	20	⑧ ⑩	KitaQフェス in TOKYO開催 事業	東京 事務 所	大学生の地元就職 の促進等に取り組む 市内大学等に対し て、新たな助成制度 により支援すること で、市と大学等が連 携して地域と大学等 の活性化に取り組む もの。	市内10大学等の 地元就職者数	868人 (R1年 度)	目標						前年度比増	前年度 比増 (R4年 度)	50,000	36,575	—	8,300	順調	市内大学生の地元企業へ の就職者数の対前年比が 104.0%であるため、「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 本市の観光や移住、U・I ターン等の情報をサポ ーターに発信することで、本 市の認知度、イメージの向 上、関連イベントの周知等 を図ることができたため、 「順調」と判断。 【課題】 情報発信を継続的に行う とともに、コロナ禍におけ る情報発信のあり方につい て検討していく必要があ る。	令和2年度で事業終了
													実績	903 人																
													達成率	104.0 %																
イベントを契機 としたネット ワークの構築	0人 (H28年 度)	目標	1,000 人	累計 3,000人 (R2年 度)																										
	実績	1,820 人																												
	達成率	182.0 %																												
KitaQサポー ター新規登録者 数	1,131人 (H30年 度)	目標	500 人	登録者 数計 2,600人 (R3年 度)																										
	実績	343 人																												
	達成率	68.6 %																												

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性					
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題						
IV-4- (1)-① 北九州 の魅力 づくり	21	⑧ ⑩	北九州市魅力 発信事業	地方 創生 推進 室	市民自らがまちの 魅力を発信するウェブ サイト「北九州市 時と風の博物館」を 通じて、本市の魅力 を発掘・再発見し、 さらに情報の共有や 補足等を行うこと で、地域資源を磨き あげ、効果的な情報 発信を展開する。	本市への愛着が あると答えた (肯定的な回答 をした)市民の 割合	目標	90.0	%	90.0	%	90.0% (R6年 度)	11,286	2,140	10,468	8,700	順調	「本市への愛着があると 答えた」、「本市が好き だ」の両方の指標につ いて、目標値に達するこ とはできなかったものの前 年度の実績に比べ上昇し、 成果指標の達成率は90% 以上と高い水準を推移し ていることから、おおむね 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市の魅力づくりの ために、北九州市魅力発 信事業での「北九州市 時 と風の博物館」の登録点 数について、一定の成果 を収めているため「順調 」と判断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い 世代を広く巻き込むこと で、多くの市民が本サイ トを通じて市の魅力を感じ るような取組を展開する 必要がある。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九 州市と関わりたい」と 思い、市民や市出身者が 自ら北九州市の魅力を発 信していく輪を広げ、北 九州市への愛着・自信・ 誇りを高めていくため に、 (1)ウェブサイト「北九 州市時と風の博物館」を 通じて、特に若い世代に 対して、シビックプライド の向上や地域情報の効果 的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団」 への戦略的な情報発信等 を通して、本市の魅力 を市内外で共有し、ロコ ミなどを活用したシティ プロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、 若者世代をターゲットに 、効果的なシティプロモ ーションを図る。			
							実績	79.3%		(H25年 度)	82.0											%	83.8	%
							達成率	91.1	%	93.1	%													
						本市が好きだと 答えた(肯定的 な回答をした) 市民の割合	目標	90.0	%	90.0	%	90.0% (R6年 度)	11,286	2,140	10,468	8,700	順調	「本市への愛着があると 答えた」、「本市が好き だ」の両方の指標につ いて、目標値に達するこ とはできなかったものの前 年度の実績に比べ上昇し、 成果指標の達成率は90% 以上と高い水準を推移し ていることから、おおむね 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市の魅力づくりの ために、北九州市魅力発 信事業での「北九州市 時 と風の博物館」におい て、一定の成果を収めて いるため「順調」と判断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い 世代を広く巻き込むこと で、多くの市民が本サイ トを通じて市の魅力を感じ るような取組を展開する 必要がある。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九 州市と関わりたい」と 思い、市民や市出身者が 自ら北九州市の魅力を発 信していく輪を広げ、北 九州市への愛着・自信・ 誇りを高めていくため に、 (1)ウェブサイト「北九 州市時と風の博物館」を 通じて、特に若い世代に 対して、シビックプライド の向上や地域情報の効果 的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団」 への戦略的な情報発信等 を通して、本市の魅力 を市内外で共有し、ロコ ミなどを活用したシティ プロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、 若者世代をターゲットに 、効果的なシティプロモ ーションを図る。			
実績	78.5%		(H25年 度)	83.9	%		86.2	%																
達成率	93.2	%	95.8	%																				
IV-4- (2)-① 戦略的 なシ ティ プロ モー ション の展開	22	⑧ ⑩	北九州市魅力 発信事業	地方 創生 推進 室	市民自らがまちの 魅力を発信するウェブ サイト「北九州市 時と風の博物館」を 通じて、本市の魅力 を発掘・再発見し、 さらに情報の共有や 補足等を行うこと で、地域資源を磨き あげ、効果的な情報 発信を展開する。	本市への愛着が あると答えた (肯定的な回答 をした)市民の 割合	目標	90.0	%	90.0	%	90.0% (R6年 度)	11,286	2,140	10,468	8,700	順調	「本市への愛着があると 答えた」、「本市が好き だ」の両方の指標につ いて、目標値に達するこ とはできなかったものの前 年度の実績に比べ上昇し、 成果指標の達成率は90% 以上と高い水準を推移し ていることから、おおむね 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市の魅力づくりの ために、北九州市魅力発 信事業での「北九州市 時 と風の博物館」におい て、一定の成果を収めて いるため「順調」と判断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い 世代を広く巻き込むこと で、多くの市民が本サイ トを通じて市の魅力を感じ るような取組を展開する 必要がある。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九 州市と関わりたい」と 思い、市民や市出身者が 自ら北九州市の魅力を発 信していく輪を広げ、北 九州市への愛着・自信・ 誇りを高めていくため に、 (1)ウェブサイト「北九 州市時と風の博物館」を 通じて、特に若い世代に 対して、シビックプライド の向上や地域情報の効果 的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団」 への戦略的な情報発信等 を通して、本市の魅力 を市内外で共有し、ロコ ミなどを活用したシティ プロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、 若者世代をターゲットに 、効果的なシティプロモ ーションを図る。			
							実績	79.3%		(H25年 度)	82.0											%	83.8	%
							達成率	91.1	%	93.1	%													
						本市が好きだと 答えた(肯定的 な回答をした) 市民の割合	目標	90.0	%	90.0	%	90.0% (R6年 度)	11,286	2,140	10,468	8,700	順調	「本市への愛着があると 答えた」、「本市が好き だ」の両方の指標につ いて、目標値に達するこ とはできなかったものの前 年度の実績に比べ上昇し、 成果指標の達成率は90% 以上と高い水準を推移し ていることから、おおむね 「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州市の魅力づくりの ために、北九州市魅力発 信事業での「北九州市 時 と風の博物館」におい て、一定の成果を収めて いるため「順調」と判断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い 世代を広く巻き込むこと で、多くの市民が本サイ トを通じて市の魅力を感じ るような取組を展開する 必要がある。	「北九州市が好き」「北 九州市が誇り」「北九 州市と関わりたい」と 思い、市民や市出身者が 自ら北九州市の魅力を発 信していく輪を広げ、北 九州市への愛着・自信・ 誇りを高めていくため に、 (1)ウェブサイト「北九 州市時と風の博物館」を 通じて、特に若い世代に 対して、シビックプライド の向上や地域情報の効果 的な浸透を図る。 (2)「北九州市応援団」 への戦略的な情報発信等 を通して、本市の魅力 を市内外で共有し、ロコ ミなどを活用したシティ プロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、 若者世代をターゲットに 、効果的なシティプロモ ーションを図る。			
実績	78.5%		(H25年 度)	83.9	%		86.2	%																
達成率	93.2	%	95.8	%																				

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 (千円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
IV-4-(2)-② 北九州を応援する人のネットワークによる情報発信	23	⑧ ⑩	北九州市魅力発信事業	地方創生推進室	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	78.5% (H25年度)	目標 90.0 %	実績 83.9 %	達成率 93.2 %	90.0% (R6年度)	11,286	2,140	10,468	8,700	順調	「本市が好きだ」の指標では前年度に比べやや上回っているほか、専用ウェブサイト地域資源登録数が目標を上回り、「本市への誇りや自信がある」と答えた市民は前年度を上回っていることから「順調」と判断。	【評価理由】 北九州市を応援する人のネットワークによる情報発信のために、「北九州市応援団」への情報発信や会員登録について、また「北九州市 時と風の博物館」の登録点数について、一定の成果を収めている。 また、「ふるさと北九州市応援寄附金」について、件数が目標値を大幅に上回っていることから総合的に「順調」と判断。 【課題】 コロナ禍により、会議やイベント等のオンラインに移行中、ネットワークの構築、拡大の方法等について検討を進める必要がある。 また、首都圏や福岡市、若者世代をターゲットに、効果的なシティプロモーションを図る。 北九州市の都市ブランド推進に向け、更に市民の意識を高め、「北九州市応援団」に対して情報発信するべく、更なる本市の魅力づくり、戦略的な情報発信を行う必要がある。	「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州市時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2) 「北九州市応援団の集い」への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコモなどを活用したシティプロモーションを図る。 また、首都圏や福岡市、若者世代をターゲットに、効果的なシティプロモーションを図る。 ふるさと寄附金については、引き続き魅力ある返礼品を開発し、寄附金額の増加を図る。
本市への誇りや自信があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	56.7% (H25年度)	目標 75.0 %	実績 54.1 %	達成率 72.1 %	80.0% (R6年度)														
市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力が伝わりますか」との質問に対し、「思いつかない」「無回答」と答えた市民の割合	16.8% (H23年度)	目標 5.0 %	実績 12.7 %	達成率 —	5.0% (R1年度)														
市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力が伝わりますか」との質問に対し、「1つ以上ある」と答えた市民の割合	83.2% (H23年度)	目標 95.0 %	実績 88.3 %	達成率 92.9 %	95.0% (R6年度)														

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）			決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
24	⑧ ⑩		首都圏応援 ネットワーク 拡大事業	東京 事務 所	首都圏において新 たなネットワーク構 築のために、サポー ターの組織化を進め る。さらに北九州市 ゆかりの店舗等の ネットワーク構築に より、民間と連携し た情報発信拠点の拡 大を図る。 これにより、首都 圏での北九州市の認 知度向上や北九州 ファン層の拡大、 人・店舗・企業のつ ながりを作る。	北九州市の認知 度（地域ブラン ド調査によるも の）	目標	10 位 以内	10位以 内 (R4年 度)	4,950	3,624	5,433	4,900	順調	新型コロナウイルス感 染症の影響により、KitaQ フェスの一部企画が中止に なったこと等から、目標値 には達しなかったが、北九 州市応援ショップ（首都圏 における本市ゆかりの店 舗）での本市食材を使用し たグルメフェアの開催など を通じて、ネットワークの 拡大等が図れたため、「順 調」と判断。			
							実績	20 位										達成率
25	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑰		ふるさと寄附 金促進事業	地方 創生 推進 室	「ふるさと北九州 市応援寄附金」につ いてPRし、寄附件数 及び寄附金額の増加 を図る。 また、寄附金の使 い道を寄附者が選択 できる仕組みと一定 額以上の寄附者に対 する地元特産品等の 贈呈を通じ、本市の 魅力を全国に発信す る。	寄附件数	目標	前年度 (11,037件) 比増	前年度比増	335,000	586,411	242,748	21,450	大変 順調	平成30年度に強化した取 組内容（返礼品の調達方法 の見直しや様々なPR媒体の 活用）を継続的に実施し、 さらに返礼品の数の大幅な 増加や、WEBを中心に首都 圏を対象とした戦略的なPR を行ったことが功を奏し、 寄附件数や寄附金額が大幅 に増加したため、「大変順 調」と判断。			
							実績	26,438 件										64,616 件
						寄附金額	目標	前年度 (19,777万 円) 比増	前年度比増									
							実績	49,816 万 円	112,654 万 円									
							達成率	251.9 %	226.1 %									

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度		R2年度		中期 目標			予算額 （千円）	決算額 （千円）	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題
IV-4- (2)-③ 都市イ メージ の向上	26	⑧	情報発信・取 材協力事業	地方 創生 推進 室	本市の認知度と都 市イメージの向上を 図るため、新聞、雑 誌、テレビ、イン ターネット等のマス メディアを通じた本 市のPRに取り組む。	北九州市の認知 度 （地域ブランド 調査によるも の）	目標	10	位 以 内	10	位 以 内	10位以 内 （毎年 度）	20,037	18,686	19,632	20,950	やや 遅れ	新型コロナウイルス感 染症拡大により、取材が激 減したことから、雑誌・新 聞等の掲載件数は目標を達 成できなかったものの、地 域ブランド調査における順 位が「認知度」「情報接触 度」ともに昨年度と比較し 上がっている。 中でも「情報接触度」に 関しては、目標順位は達成 していないものの、著しく 順位が上昇しているため、 総合して「やや遅れ」と判 断。	やや 遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感 染症拡大により、取材数が 激減したことから、雑誌・新 聞等の掲載件数は目標を達 成できなかったものの、地 域ブランド調査における順 位が「認知度」「情報接触 度」ともに昨年度と比較し 上がっている。 中でも「情報接触度」に 関しては、目標順位は達成 していないものの、著しく 順位が上昇しているため、 総合して「やや遅れ」と判 断。 【課題】 引き続き「ウィズコロ ナ」「アフターコロナ」を 意識した広報が求められ る。	引き続き、本市の都市ブ ランド推進に向け、魅力づ くりや戦略的な情報発信に 努める。
							実績	20	位	18	位										
							達成率	—	—	—	—										
						北九州市の情報 接触度 （地域ブランド 調査によるも の）	目標	10	位 以 内	10	位 以 内	10位以 内 （毎年 度）									
							実績	19	位	11	位										
							達成率	—	—	—	—										

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 (千円)	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)			事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
V-3- (2)-② 公共施設 の転用な どの検討	27	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	公共施設マネジメント推進事業	都市マネジメント政策課	「公共施設マネジメント実行計画」に基づき、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取り組みを進める。	公共施設保有量の縮減	全公共施設(H26年度)	目標 — 実績 — 達成率 —	R1年度 — R2年度 —	約20%削減(R37年度)	9,108	1,943	311	54,000	順調	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」の着実な推進を図るため、「公共施設マネジメント5ヶ年行動計画」に基づき、PDCAサイクルで評価・見直しを行い、概ね計画どおり実施したため、「順調」と判断。			
	28	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	門司港地域複合公共施設整備事業	都市マネジメント政策課	「北九州市公共施設マネジメント実行計画」に基づき、門司港地域及び大里地域において、公共施設の集約等の取り組みを進める。	門司港地域における複合公共施設の整備	モデルプロジェクト再配置計画策定(H27年度)	目標 複合公共施設の整備の推進 実績 複合公共施設の整備の推進 達成率 —	複合公共施設の整備の推進	複合公共施設の整備の推進	複合公共施設の整備の推進(R5年度整備予定)	149,300	122,160	126,834	46,500	やや遅れ	門司港地域では、基本設計及び補償物件調査を行った。計画の実現に向けた具体的な取組が進んでいるが、門司港地域の基本設計で、施設を建築できる敷地の範囲や施設配置の見直し、物価上昇等により、整備費が、約15.5億円の増額となった。そのため、本事業に係る経費縮減に向けて、令和3年度に検証業務を行うこととなり、公共事業評価が1年遅れるため、「やや遅れ」と判断。	順調	【評価理由】 門司港地域複合公共施設整備事業の進捗にやや遅れがみられるものの、公共施設マネジメントの取組は予定通り進んでいることから、「順調」と判断。 【課題】 課題の進捗状況を的確に把握し、評価を行いながら進めていくなどの実効性の確保が必要。 計画の推進にあたって、市民説明や市民意見の把握に努めるほか、関係各所との調整など、丁寧な取組を進める必要がある。

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
V-3- (2)-③ 近代化 遺産な どの文 化財の 活用	29	①	世界遺産維持 活用保全事業	世界 遺産 課	国や関係自治体、 所有者等との連携の もと、遺産価値の保 全につとめる。	登録資産の保全	目標	保全計画 策定	ユネスコへの 報告書作成	ユネス コへの 報告書 作成 (毎年 度)	26,000	25,601	22,822	5,800	順調	世界遺産登録資産につ いて、予定通り報告書を作成 した。 また、イオンモールに ブースを出展するなど、理 解増進に努めたため、「順 調」と判断。	【評価理由】 新型コロナウイルス感染 拡大防止のためバスツアー の実施はできず、参加者の 目標値を達成できなかった が、資産保全に向けた報告 書の作成や、旧本事務所内 部の紹介動画の作成など、 理解増進・集客増に向けた シビックプライドの醸成へ の取組を進めることができ たため、「順調」と判断。 【課題】 現在の社会情勢に応じた バスツアーの実施方法や、 更なる魅力発信、眺望ス ペースの幅広い活用などを 検討していく必要がある。	世界遺産登録された構成 資産の保全を行っていくと 共に、関係機関と連携して インタープリテーション （理解増進・情報発信）の 取組を推進し、観光資源と しての魅力向上を図ってい く。
							実績	保全計画の策 定	ユネスコへの 報告書作成									
							達成率	—	—									
						まつり起業祭 等、地元の祭り 等に出展	目標	2 件	2 件	2件 (毎年 度)								
							実績	2 件	2 件									
							達成率	100.0 %	100.0 %									
	30	①	世界遺産連携 事業	世界 遺産 課	世界遺産の特色を 生かし、来訪者や子 どもたちへのシビック プライドの醸成を 図る。	日本事務所眺望 スペースの来場 者数	目標	5万 人	20万人 (H28~ R1年度)	3,800	2,382	5,453	5,800	順調	新型コロナウイルス感染 症により、来場者数の減少 など影響を受けている。一 方で、眺望スペースにガイ ドを配置し、来訪者へのイ ンタープリテーション（理 解増進・情報発信）を推進 し、高い満足度を得たため 「順調」と判断。			
							実績	1万3千 人	1万3千 人									
							達成率	26.0 %	26.0 %									
						眺望スペース来 場者の満足度	目標	37% (H29年 度)	50 %	60% (R4年 度)								
							実績	37%	80 %	80 %								
							達成率	160.0 %	160.0 %									
北九州都市圏域 内への観光客数						目標	3,658 万人	3,665 万人	3,673万 人 (R2年)									
						実績	3,380 万人	集計中										
						達成率	92.4 %	—										
北九州都市圏域 内の宿泊者数						目標	177.4万 人 (H27年)	178.6 万人	179.4万 人 (R2年)									
						実績	177.4万人	231.9 万人	集計中									
						達成率	129.8 %	—										

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
	31	①	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	世界 遺産 課	理解増進に向けた 取組みとして旧本 事務所見学バスツア ー等を実施する。	バスツアーの参 加者数	64人	目標 実績 達成率	180人 0人 0.0%	180人 (R4年 度)	10,000	8,569	—	5,800	遅れ	理解増進に向けた取組の うち、旧本事務所内部の紹 介動画作成等を実施した が、バスツアーは新型コ ロナウイルス感染拡大防 止のため開催できなかった ため、「遅れ」と判断。			
VII-1- (1)-① 「東ア ジア経 済交流 推進機 構」事 業の推 進	32	⑧	東アジア（環 黄海）経済交 流推進機構推 進事業	国際 政策 課	平成16年11月に設 立した「東アジア経 済交流推進機構（以 下「機構」）」の共 同事務局として、会 員都市との連絡調 整、各会議の窓口調 整や開催支援を行う とともに、機構活動 の管理運営にあた る。	会員都市間ネッ トワークの活用 による共同プロ ジェクトの件数	4件 (H26年 度)	目標 実績 達成率	4件 3件 100.0%	3件 3件 100.0%	4件以上 (毎年 度)	5,900	0	6,000	11,050	順調	共同プロジェクトは目標 の件数を実施することがで きた。 また、新型コロナウイルス 感染症の影響により日中 韓の往来が困難な中、オ ンラインを利用して交流を 継続し、コロナ終息後を見 据えた機構改革のための 協議を進めることができた ため、「順調」と判断。	【評価理由】 コロナ禍においてもオン ラインツールを活用した交 流を進めた点を評価し、 「順調」と判断。 【課題】 コロナ後の日中韓交流の 在り方を検討し、機構改革 に新しい視点を入れ再考す る必要がある。	往来が再開すると同時 に、加盟都市との交流がス ピーディーに進められるよ う、今年度中に機構改革案 をブラッシュアップし活性 化を図る
						東アジア経済交 流推進機構にお ける会議数	24件 (H26～ H30年 度)	目標 実績 達成率	4件 2件 50.0%	4件 2件 50.0%	19件 (R2～R6 年度)								
VII-1- (1)-② 都市間 交流・ 連携の 推進	33	⑩	国際交流事業	国際 政策 課	姉妹・友好都市を 中心とした海外諸都 市との様々な分野で の交流推進を図るた め、訪問団の受入れ や本市からの訪問団 派遣等の交流事業を 行う。	姉妹・友好都市 を中心とした海 外諸都市との交 流事業参加者延 べ人数	343人 (H26年 度)	目標 実績 達成率	330人 1,164人 352.7%	330人 229人 69.4%	330人以上 (毎年 度)	8,881	1,195	3,673	14,950	順調	海外との往来が困難な 中、オンラインツールを 活用した交流事業を進 めたため、「順調」と判断。	【評価理由】 海外との往来が困難な 中、アセアン諸国など アジア新興国との交流 事業に一部遅れが見ら れるものの、駐日外国 公館向けの事業やオン ラインツールを活用し た交流事業を実施する など、コロナ禍におい て実施可能な形態で事 業を進めることで、目 標を概ね達成したため 、「順調」と判断。 【課題】 アセアン諸国との交流 について、オンラインツ ールを活用するととも に、往来再開時には交 流・連携を強化する。	姉妹・友好都市に限ら ず、アセアン地域やオ セアニア等、様々な国 ・地域との交流・連 携が強化できるよ う調査を進める。
						アセアン諸国 などアジアの新 興国との交流 事業参加者延 べ人数	135人 (H26年 度)	目標 実績 達成率	210人 274人 130.5%	110人 40人 36.4%	110人以上 (毎年 度)								
						ASEAN新都市 間連携促進事 業	—	目標 実績 達成率	20人 18人 90.0%	20人 14人 70.0%	20人以上 (毎年 度)								

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性								
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）			事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題							
VII-1-(2)-② 文化・スポーツ交流の拡大	36	⑩	国際交流事業	国際政策課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	343人 (H26年度)	目標 330 人	実績 1,164 人	達成率 352.7 %	330 人	330 人	330人以上 (毎年度)	8,881	1,195	3,673	14,950	順調	海外との往来が困難な中、オンラインツールを活用した交流事業を進めたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 コロナ禍で往来が困難な中オンラインツールを使った新しい交流を実施できたため「順調」と判断。 【課題】 コロナ後の国際交流の在り方を検討し、双方に意義のある交流を進める。	行政間交流や文化交流の枠を超え、姉妹・友好都市と本市の双方にメリットとなる分野を調査検討する。				
VII-2-(2)-② 海外の経済事務所の活用	37	⑧	中国ビジネスサポート拠点整備事業	国際政策課	駐中国北九州市経済事務所を設置・運営し、地元企業のビジネスサポートや進出支援を行うとともに、本市と中国の都市とのネットワークを形成・強化する。	海外事務所の本市地域企業への貢献度	—	目標 80.0 %	実績 91.5 %	達成率 114.4 %	80 % 以上 (R2年度)	80 %	89.4 %	111.8 %	45,548	31,928	48,306	3,075	順調	コロナ禍において中国を訪問する市内企業は激減したが、様々なツールを活用し、情報提供や販路拡大支援を行い、貢献度の目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 海外事務所の本市地域企業への貢献度が目標を上回ったため「順調」と判断。 【課題】 コロナ後の中国経済の動向を見極めるため情報収集に注力し、市内企業への中国国内の情報提供等オンラインを活用した積極的な交流を進める。	マンパワーに限られる中、市内企業のニーズに合った中国全土のビジネスチャンスをうまく捉え、効率的に活動し、事務所の経費削減も出来るよう、適切な運営方法を検討する。			
					海外事務所を利用した企業数	—	目標 390 社	実績 492 社	達成率 126.2 %			250 社	139 社									R3年度の状況により設定				

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題		
VII-2- (3)-② 国際都 市にふ さわし いまち づくり	38	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際策 課	日本人市民に対し て、多文化共生に関 する意識啓発や国際 交流の機会や場の提 供を行うことで、外 国人を受け入れる地 域づくりを目指す とともに、すべての 市民が安心して暮ら し、自己の能力を発 揮できる「多文化共 生先進都市」として のまちづくりを推進 する。	市民の「多文化 共生」という言 葉の認知度	51.8% (H29年 度)	目標 53.0 % 実績 58.1 % 達成率 109.6 %	R1年度 53.0 % R2年度 60.6 % 中期 目標 60% (R6年 度)	43,565	42,241	56,272	3,075	順調	外国人市民を対象とした 事業の後援をはじめ、学生 への講義、多文化共生意識 醸成番組の放送を実施する など、外国人市民と日本人 市民の相互理解の促進に努 めたため、「順調」と判 断。					
	39	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向 けた留学生等 受入定着促進 事業	国際策 課	留学生等を地域で 支える体制を構築 し、留学誘致、生活 支援、就職支援の各 施策を一体的に実施 し、定着促進を図 る。	外国人人口の社 会動態増加数 (H28年増加数 比)	外国人社 会動態増 加数+ 1,010人	目標 +1,600 人 実績 +1,452 人 達成率 90.8 %	+1,600 人 (R1年 度)	10,900	6,142	9,870	8,700	順調	留学生誘致PRツール更新 や留学生支援ネットワーク による情報提供を随時行っ た。 また、留学生と地元企業 の相互理解度や留学生の市 内企業への就職者数の達成 率から、「順調」と判断。	【評価理由】 多文化共生の意識啓発に 関する事業の実施、協力を 行ったことで、「多文化共 生」という言葉の認知度が 増加するなど、外国人市民 と日本人市民の相互理解が 促進されているため「順 調」と判断。 【課題】 留学生と地元企業の相互 理解については、関係機関 と連携しながら、情報共有 等を行っていく。	多文化共生の理解者の広 がりや地域づくりの担い手 育成につなげるため、今後 も外国人市民のニーズに応 じた事業を進めていく。			
	40	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター関連事業	国際策 課	外国人市民が安心 して生活できるため の情報提供や相談に 多言語で一元的に対 応する「北九州市多 文化共生ワンスタッ プインフォメーショ ンセンター」の運営 を行う。	外国人市民の生 活環境の向上 (多文化共生の 現状調査で暮ら しやすいと回 答)	79.7% (H26年 度)	目標 80.0 % 実績 85.0 % 達成率 106.3 %	単年度目標設 定なし — —	80%以 上 (R6年 度)	24,715	24,715	24,615	2,325	順調	令和2年度は新型コロナ ウイルス感染症対策のため、 電話・メール・FAXでの 対応を行い、外国人市民 への相談体制の充実を図っ たことで、相談件数の目標 を達成することができた (目標：900件→実績： 1,201件)ため、「順調」 と判断。				

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題
VII-3- (1)-① 県内周 辺市町 村との 広域連 携推進	41	⑪	新たな広域連 携推進事業	政策 調整 課	<p>「連携中枢都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）</p> <p>国の進める「連携中枢都市圏構想」に基づき、近隣16市町と連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。また、下関市との連携については、県境を越えた連携中枢都市同士の連携の可能性を検討していくものである。</p> <p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討</p>	69% (H28年 度)	目標 90 %	実績 90 %	90 %	94 %	90% (R2年 度)	2,285	142	1,766	13,300	順調	<p>連携中枢都市圏ビジョンについては、事業の実施割合が目標値を達成した。</p> <p>また、下関市との連携について、関門地域連携推進協議会及び担当部門会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。</p>	<p>【評価理由】 連携中枢都市圏ビジョンについては、事業の実施割合が目標値を達成した。</p> <p>また、下関市との連携について、関門地域連携推進協議会及び担当部門会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。</p> <p>【課題】 今後も周辺市町との連携を一層強化していく必要がある</p>	令和3年5月に吉富町が北九州都市圏域に新たに参画した。下関市も含め、今後もより一層、周辺市町との連携を強化していく。
	42	⑫	北九州都市圏 域連携事業	政策 調整 課	<p>本市と近隣自治体（福岡県北東部の16市町）で形成された、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」のブランディング、プロモーション事業を行う。</p>	177.4万 人 (H27年)	目標 178.6 万人	実績 231.9 万人	集計中	179.0 万人	179.4万 人 (R2年)	5,090	3,189	6,112	17,400	順調	<p>令和2年実績は集計中（新型コロナウイルス感染症の影響がある見込み）であるが、令和元年実績において、観光客数は目標に及ばなかったものの、宿泊者数は目標を超える結果となった。</p> <p>事業について、新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏でのプロモーション事業は縮小したが、HPの作成や福岡都市圏でのイベント開催を行ったため、「順調」と判断。</p>		
					北九州都市圏域 内の宿泊者数	3,640万 人 (H27年)	目標 3,658 万人	実績 3,380 万人	集計中	3,665 万人	3,673万 人 (R2年)								
					北九州都市圏域 内への観光客数		達成率 129.8 %		—										
							達成率 92.4 %		—										

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度		R1年度	人件費 (目安)	R2年度				R4年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の 理由及び課題		
VII-3- (1)-② 近隣主要都市 との都市間連携	43	⑩ ⑪ ⑰	新たな広域連携推進事業	政策調整課	<p>国の進める「連携中枢都市圏構想」に基づき、近隣16市町と連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。また、下関市との連携については、県境を越えた連携中枢都市同士の連携の可能性を検討していくものである。</p>	「連携中枢都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）	69% (H28年度)	目標 90 %	実績 90 %	90 %	94 %	90% (R2年度)	2,285	142	1,766	13,300	順調	<p>連携中枢都市圏ビジョンについては、事業の実施割合が目標値を達成した。また、下関市との連携について、関門地域連携推進協議会及び担当部門会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 連携中枢都市圏ビジョンについては、事業の実施割合が目標値を達成した。また、下関市との連携について、関門地域連携推進協議会及び担当部門会議は、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。</p> <p>【課題】 今後も近隣都市との連携を一層強化していく必要がある。</p>	<p>今後も近隣都市との連携を一層強化していく。</p>
	44	⑧ ⑪ ⑰	関門地域魅力向上事業	政策調整課	<p>下関市と連携して、関門地域の魅力を官民協働でブランド化し、関門ファンや宿泊型滞在観光客の増加を図る。</p>	<p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取組みについて協議・検討</p>	<p>関門地域の活性化に資する連携会議等での取組の協議・検討</p>	—	目標 3,165,422 千円	実績 3,419,000 千円	2,451,595 千円	集計中	11,957,000千円 (H28～R2年)	0	0	13,605	20,750	順調	<p>令和2年実績は集計中（新型コロナウイルス感染症の影響がある見込み）であるが、令和元年の実績は目標を超える結果となったため「順調」と判断</p>		

令和2年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度		R1年度 決算額 （千円）	人件費 （目安） 金額 （千円）	R2年度			R4年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R1年度		R2年度		中期 目標			予算額 （千円）	決算額 （千円）	事業 評価		評価の理由	局施策 評価	局施策評価の 理由及び課題	
VII-3- (2)-② 九州各 地域な どとの 連携	45	⑰	広域行政推進 事業	政策 調整 課	<p>【西九州軸連携】 九州新幹線沿線自治体（鹿児島市、熊本市、福岡市）との「四都市連携」と福岡県内の政令市同士として共同施策を進める福岡市との「福北連携」を核とした広域連携に加えて、鹿児島県南九州市との都市間交流の推進により、九州の一体的な発展のため、西九州軸の広域連携の強化を図るものである。</p> <p>【東九州軸連携】 東九州軸では東九州自動車道全線開通を見据え、京築地域や大分・宮崎などの都市との連携構築に取り組む。</p>	九州地域などにおける交流・連携都市数（累計）	26都市 (H28年 度)	目標	27	都市	27	都市	27都市 (毎年 度)	4,454	2,933	3,559	3,075	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により交流・連携事業の形式を一部変更したが、積極的に行っており、「順調」と判断。	順調	<p>【評価理由】 九州地域などにおける交流・連携都市数の維持、連携事業の実施などから「順調」と判断。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染症を踏まえた交流・連携事業に取り組んでいく必要がある。</p>	今後も交流・連携の枠組みを維持・継続し、九州の各地域との連携を強化していく。
								実績	27	都市	27	都市										
								達成率	100.0	%	100.0	%										
						連携事業の実施 (西九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	目標	1	回	1	回	1回 (毎年 度)									
								実績	1	回	1	回										
								達成率	100.0	%	100.0	%										
						連携事業の実施 (東九州軸での活動)	1回 (H28年 度)	目標	1	回	1	回	1回 (毎年 度)									
								実績	1	回	2	回										
								達成率	100.0	%	200.0	%										